

当大学における 2016～2019年度インフルエンザ罹患報告

The flu infection report in 2016-2019 in Keio University

刈田 未来* 當仲 香* 松本 可愛* 澁谷麻由美*
高橋 綾* 横山 裕一* 森 正明*

慶應保健研究, 38(1), 113-117, 2020

要旨: 当大学では, 新型インフルエンザが流行した2009年10月より, 感染症WEB登録システムを利用した感染症の罹患報告受付と大学生の登校許可面接を実施している。過去の我々の研究¹⁾では, WEB登録を利用する件数が報告数全体の70%近くあり, 登校許可面接前に罹患報告する割合がシステム導入前と比較して60%から72.6%に増加していた。

2016年度から2019年度における当大学の学生のインフルエンザ罹患報告総数をみると1,604件であり, そのうちWEB報告があったのは1,099件(68.5%)であった。インフルエンザの発症から報告するまでの平均日数は4.48日であり, 入力に不備のあった459件を除く1,145件のうち, 登校許可面接を登校前に実施したのは743件(64.9%), 登校前に面接を実施しなかったのは402件(35.1%)であった。よって, WEB報告を利用した感染症管理は, 学内の感染症の早期かつ確実な把握に有用性が高いと考えられた。

一方, 大学生は休講時期もあり, 感染症罹患報告は徹底していないと思われる。感染拡大対策の重要性を再度周知し, 大学全体で罹患報告を徹底させる必要があると考える。

keywords: 学校感染症, インフルエンザ, WEB報告システム

School infections, Influenza, WEB reporting system

はじめに

感染症予防の観点から, 小中学校・高等学校だけでなく, 大学においても, 感染症流行早期からの正確な把握と感染拡大対策は重要である。しかしながら, 特に授業が個別登録であり, 出欠席の確認を教員に任せている大学においては, 学生からの罹患報告が徹底していないのが実情である。

当大学では, 新型インフルエンザが流行した2009年10月より感染症WEB登録システム

を利用した感染症の罹患報告受付と, 大学生の登校許可面接を実施している。今回, 全国の各大学における感染症罹患報告の実施状況および当大学における2016年度から2019年度の大学生のインフルエンザ罹患報告と面接状況を解説する。

各大学での学校感染症報告について

インターネットにて, 主な大学の感染症報告方法, 登校許可面接の状況について調査した

*慶應義塾大学保健管理センター
(著者連絡先) 刈田 未来 〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

(表1)。私立大学では、罹患時の報告や登校許可証明の発行をしている大学もあったが、国立大学では実施していない大学も多かった。ま

た、登校許可証明の提出を保健管理施設ではなく、直接学生部や教員へ渡す仕組みの大学もみられた。

表1 各大学での学校感染症の登校許可手続き

	報告方法	報告先
立命館大学 学習院大学 東京家政大学	書類	治癒後、所属キャンパスの保健センターに届け出し、面接を実施、担当教員へ提出する。
成蹊大学	WEBで罹患報告、書類	治癒後、医療機関が発行した感染症登校許可書もしくは出席停止期間が記入された診断書を大学保健室へ提出、面接を実施、担当教員へ提出する。
早稲田大学 大正大学 国士館大学 亜細亜大学	書類	治癒後、登校する際に、「学校感染症治癒証明書(診断書)」を学生課や事務室へ提出する。(登校許可面接はなし)

当大学での感染症罹患報告方法

当大学では、インフルエンザに罹患した学生は、大学ポータルサイトの画面(図1)から、WEB報告システムにて「感染症罹患報告」を行っている。これは2009年度の新型インフルエンザ流行期に、現時点での流行を把握し対策を得るために作った仕組みである。入力データ

はダウンロードし、報告数をカウントできるようになっている。

その後、再登校初日に、「感染症登校許可証明書」を用いて保健管理センターにて面接を実施する(図2)。面接後、書類は本人が学生部へ提出し、欠席した期間の試験や授業について相談する流れである。

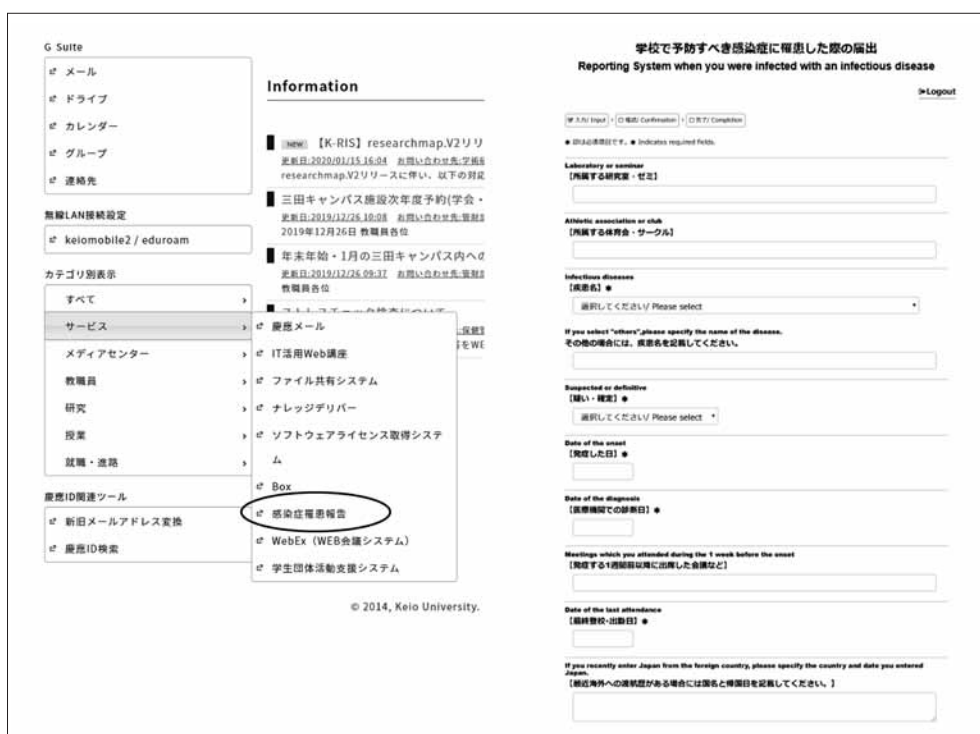


図1 感染症罹患届 (WEB画面)

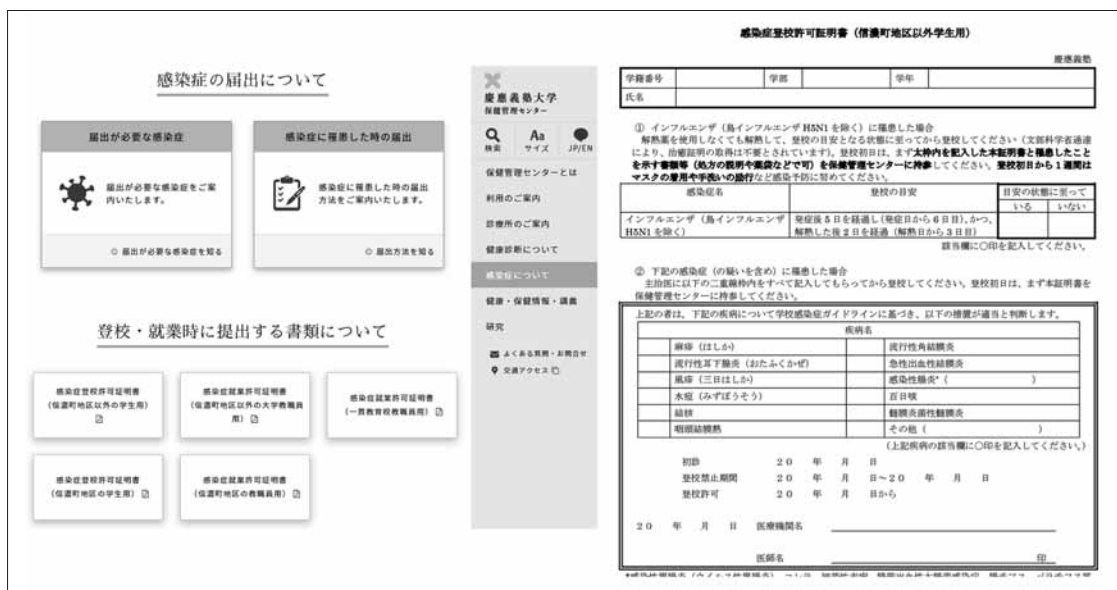


図2 登校許可証明書ダウンロード画面 (WEB画面)

当大学における2016～2019年度インフルエンザ罹患報告状況

1. インフルエンザ罹患報告総数

2016年度から2019年度における当大学の学生のインフルエンザ罹患報告総数は1,604件であった(図3)。そのうちWEB報告があったのは1,099件(68.5%)であった(図4)。学年別の報告総数を比較すると、1年生が669件と最も多かった(図5)。

2. インフルエンザに罹患してから報告するまでの平均日数

インフルエンザの発症から報告するまでの日数は 4.48 ± 4.8 日(平均日数 \pm 標準偏差)であった(表2)。罹患当日または翌日に報告していたのは460件(28.7%), 罹患後2～5日目に報告したのは605件(37.7%), 罹患後6日以上経ってから報告があったのは539件(33.6%)であった(図6)。

3. 登校許可面接の実施状況

登校許可面接について、入力に不備のあった459件を除く1,145件の状況を解析した。1,145件中、登校前に面接を実施していたのは743件(64.9%), 登校前に面接を実施しなかったのは402件(35.1%)であった(図7)。

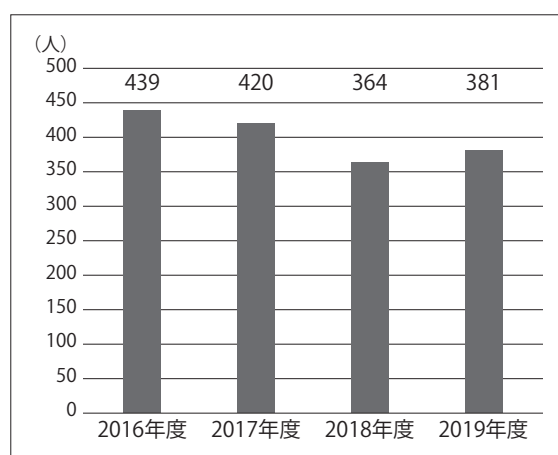


図3 インフルエンザ罹患報告総数 (N=1604)

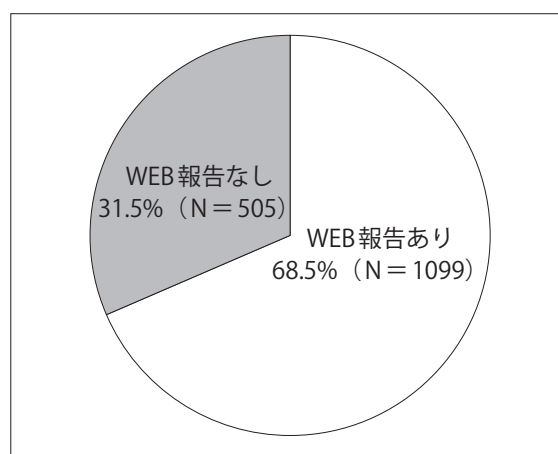


図4 インフルエンザのWEB報告の有無 (2016～2019年度)

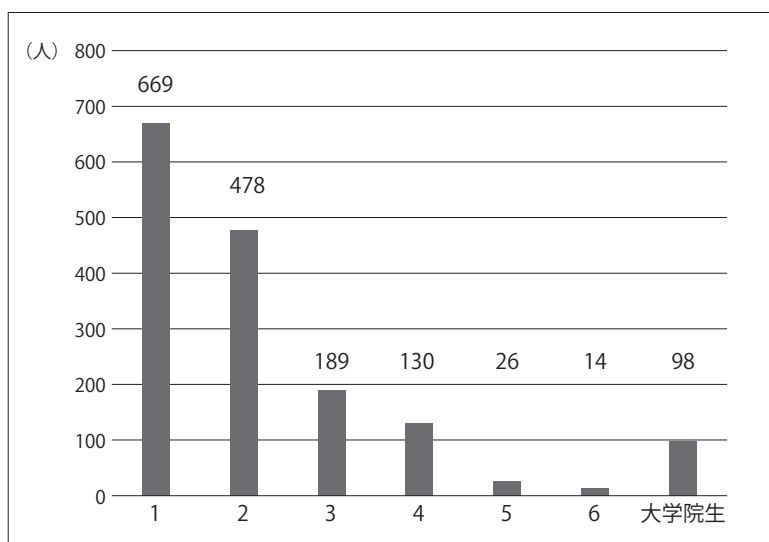


図5 学年別でみたインフルエンザ報告数 (2016～2019年度)

表2 インフルエンザに罹患してから報告するまでの平均日数 (2016～2019年度)

年度	件数	平均日数	標準偏差
2016年度	439	4.31	4.318
2017年度	420	4.59	4.940
2018年度	364	4.40	4.361
2019年度	381	4.62	5.670
合計	1,604	4.48	4.839

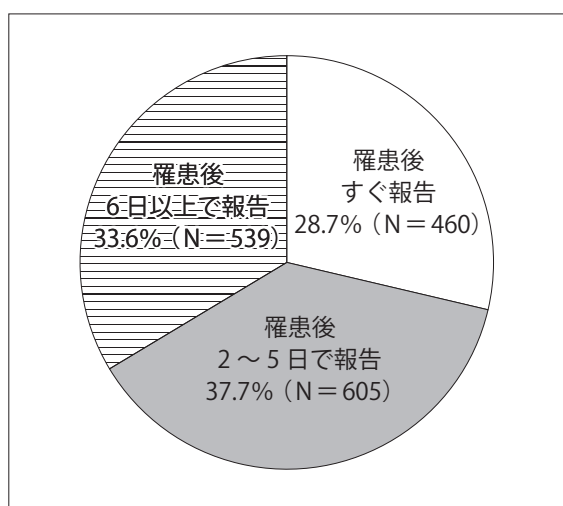


図6 インフルエンザ罹患後、何日目に報告したか (2016～2019年度)

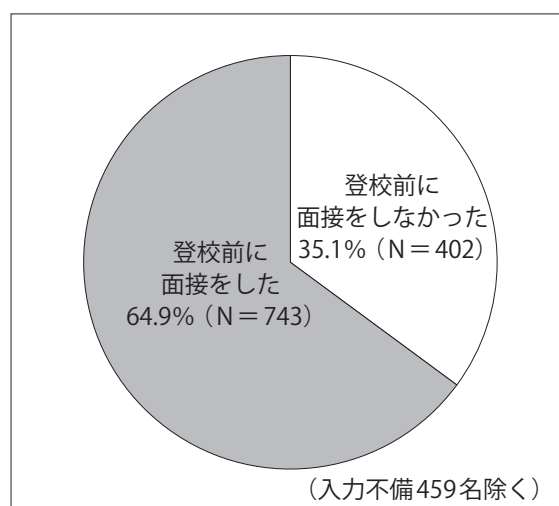


図7 登校許可面接をしてから登校したか (2016～2019年度)

結論

2016年度から2019年度は年間平均400件前後のインフルエンザ罹患報告があったが、そのうちの7割近くの学生がWEB登録を利用していることがわかった。また、罹患後から報告する

までの平均日数が5日以内であり、6割以上が登校許可面接実施前に罹患を報告していることから、WEB報告を利用した感染症管理は、学内の感染症の早期かつ確実な把握に有用性が高いと考えられた。

しかし、WEBで感染症報告をしたが登校許可面接を行わずに就学を再開していたり、登校許可面接時に学校感染症登校の目安を満たしておらず、面接当日に登校再開日を延期する場合もあった。また学生は、授業や試験の取り扱いを気にしている場合には感染症報告や登校許可面接をするが、授業のない期間や単位取得などに関係ない場合には罹患報告もしていない可能性が高いと考えられ、実際に報告されている罹患者は氷山の一角とも考えられる。

学内での感染症の流行を最小限に押さえ込むためには、流行の実態を迅速かつ的確に把握し、罹患者が他人への感染のおそれのある期間、登校を禁止する措置を適切に講じる必要がある²⁾。罹患報告を実施していない大学もあるが、クラスター感染防止のためには、学生・教職員問わず、大学全体で感染症の罹患報告を徹底させる必要があると考える。

学生に対しての感染症報告制度の周知は、入学時のオリエンテーションや学生定期健康診断、保健管理センターのホームページなどでも随時行っているが、今後は最も報告数の多い新入生を中心に、感染拡大対策の重要性や感染症報告の流れについての広報活動をさらに充実させていくことが重要である。また、学生本人だけでなく、特に学生への対応が多い部署の職員や教員とも感染症報告制度の認識のすり合わせを行い、大学全体で統一した対応をとることができるようにしていくことも必要だと考える³⁾。

文献

- 1) 田中由紀子, 松本可愛, 藤井香, 他. 大学における感染症WEB報告システムを利用した感染症管理. CAMPUS HEALTH 論文集・協会彙報(事務局) 2010; 2: p. 43-48
- 2) 森島恒雄, 他. 成人の新型インフルエンザ治療ガイドライン 第二版. 平成28~29年度 日本医療研究開発機構 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 新型インフルエンザ等への対応に関する研究 2017
- 3) 岡田賢司, 他. II. 学校における感染症への対応. In: 学校において予防すべき感染症の解説. 公益財団法人日本学校保健会; 東京: 2018. p. 8-22